



くすりと健康

● 神戸市薬剤師会 ●

皮膚トラブルの薬

皮膚には体の保護、体温の維持、呼吸、分泌、知覚作用があり、体を守っています。皮膚のトラブルの原因となるのは傷や細菌、炎症などですが、中でも身の回りにおける化粧品、香水、せっけん、肌着、植物、花粉、ネックレス、ピアス、洗剤、虫、塗料、薬品などは、すべてが皮膚炎や湿疹の原因になります。

■ 皮膚のトラブル

アレルギー性：皮膚にある物質が何回も接触することで、皮膚にその物質（抗原）に対する抗体ができ、その抗原と抗体が反応して起こります。
非アレルギー性：一度触れただけで起こる一次毒物刺激によるものです。

光アレルギー性：光毒物質（香水、糖尿病薬、血圧降下剤などに含まれ

るある種の成分）を皮膚に付けたたり、内服して紫外線に当たると、皮膚内に沈着している光毒物質が活性化して炎症を起こします。そのため、日光に当たる部分に出やすいのが特徴です。

内因性：先天的に皮膚の敏感な人に出る症状で、アトピー性皮膚炎などがあります。

■ 皮膚トラブルの薬

【内服薬】
抗ヒスタミン剤：アレルギー性のかゆみのある皮膚炎、湿疹に使用します。眠気をもよおすことがあるので、注意が必要です。
抗生物質：化膿性の皮膚炎に効きます。医師の指導のもと使用し、長期連用は避けてください。

【外用薬】

副腎皮質ステロイド剤：炎症性の皮膚炎に速効性があります。副作用が強いので、顔など皮膚の薄い部分や化膿しているところに使用しない

ようにし、医師の指導のもと長期連用は避けてください。

傷薬：細菌の感染を防止し、止血、痛みを止める作用があります。

皮膚トラブルの薬は含有成分だけでなく、皮膚が乾燥していればローションやクリーム状のもの、ジュクジュクしていれば軟こう、傷があれば油性の軟こうなど、症状に合わせた剤形で選ぶことが大切です。症状が似ていても原因が異なる場合もありますので、医師の診断が大切です。

■ 夏期に起こりやすい皮膚トラブル

とびひ：幼児や子どもがかかりやすい細菌の感染による伝染性の皮膚炎です。患部が広がらないように抗生物質軟こうを外から内に塗布し、患部を触らないようにしましょう。もし触った場合は、必ず手を消毒液で洗うようにしてください。

このように、皮膚のトラブルとなる原因をできる限り回避し、健康な皮膚で体を守りたいものです。